

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

【低学年】

- ・書写の時間を中心に、視写や聴写を取り入れたことで、正しい字を書く習慣が身に付いてきた
- ・漢字小テストを繰り返し行うことで、新出漢字が定着し、漢字検定にも9割程度の児童が合格できた。
- ・あのねノートを活用した書く活動を、1年間を通して日常的に行ったことで、文章を書くことへの抵抗感が減り、4月当初に比べ、多様な題材で書けるようになった。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を意識して書いたり、「まず・つぎに」などの順序を表す言葉を使って説明を書いたりするなど、学習したことを生かして書くこともできた。
- ・「ことばのたからばこ」を活用し、豊かな言葉を取り上げて書く指導を継続的に行った。多くの語彙が蓄積・拡充され、自分の思いを表すのにふさわしい言葉を選んで書く児童が増えてきた。
- ・ワークシートを工夫したり、イメージマップなどの思考ツールを活用したりしたことで、主体的に学習に取り組み、構成を意識して文章を書けるようになった。
- ・授業の最後に、1時間の学びを振り返る時間を継続して設定したことで、児童自身がその時間に何を学びどんな力が高まったのか、次に何を学ぶのかを学習感想に書けるようになってきた。

【中学年】

- ・漢字やローマ字を定着させるために、宿題やスキル、タブレットで反復練習を習慣化したり、既習漢字を積極的に用いることを伝えたりして、定着を図ることができた。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しようと意識して文章を書けるようになった。
- ・言語活動の充実のために、教科書や漢字スキルの学習、読書活動、調べ学習等で分からない言葉が出てきたときには積極的に国語辞典を用いた。その結果、語彙力が増え、正しい言葉を使って文章を書ける児童が増えた。
- ・自分で考える時間、ペアで考えを共有する時間、全体に共有する時間を設け、考えを表現する機会を増やしたことで主体的に授業へ参加する児童が増えた。
- ・自分の興味、関心があることについて調べ学習を行うことにより、文章を書くことへの意欲を高めた児童が多かった。また、兄弟学級の児童への手紙を書く活動では、目的を意識して書くことができたので、苦手意識をもっている児童も、熱心に活動することができた。
- ・読書学習司書との連携を図り、関連図書読書、調べ学習、百科事典の使い方など、様々な分野の本に触れる機会を設けた。それにより、学習意欲や関心が高まり、学習後の読書活動にもつながった。

【高学年】

- ・「事実」と「意見」とを分けて読んだり、書いたりすることに意識して取り組めるようになってきた。
- ・語句や文法に関するクイズを授業の導入時に取り入れたり、辞書での語句調べの活動を行ったりしたことで児童が「語彙を増やそう」と意識したり進んで辞書を活用しようとしたりする姿が見られた。
- ・「書く」際に型や手本を示したことで、どの児童も自分なりに書くことができた。
- ・書いたり、話したりする単元では、導入や題材の設定場面を工夫したことにより、興味をもち主体的に取り組む姿が見られた。
- ・センテンスカードの活用や、教材の工夫、子供たちの思考を揺さぶる発問の工夫をしたことは、児童の学びに向かう主体性につながり、効果的であった。
- ・説明的文章では、構造的読解力を身に付けるために板書の工夫やICT機器の活用、文章の全体像の視覚化などを取り入れた。それにより、児童が要旨や事例・文章構成の型を捉えられるようになった。また、文学的文章では、中心人物の心情変化を読めるようになった児童が増えた。

- ・説明的文章で学んだ文章構成について、その学びを活用して自らの書く活動に生かす児童が増えた。
- ・単元計画をクラス全体で考えたり、児童に委ねる場面を意図的に設定したりしたことから、児童が目的意識をもって取り組み、自ら学び方をデザインする力が高まった。

(2) 課題

【低学年】

- ・促音、拗音、長音の書き表し方や、片仮名で書く言葉が身に付いていない児童が見られる。単元として扱えば理解できるし文章の推敲などでは気付くことができるが、普段の書く活動では抜けてしまう。継続的な指導や個別指導を取り入れていく必要がある。
- ・スピーチ活動を日常的に取り入れ、抵抗なく話せる児童が増えたが、話すことに苦手意識をもち、適切な大きさの声で話せない児童もいる。
- ・制限のある中ではあったが、交流活動を取り入れてきた。交流活動を通していろいろな考えを知り、自分の考えを明確にし、読み取りや自分の考えの広がりや深まりに活かせるようにするために、今後も交流のねらいや目的、それが達成できる交流方法を一つ一つ検討していくことが必要である。

【中学年】

- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけではなく、原稿用紙の正しい使い方等、全体指導をしていく。
- ・「そして」「それから」を多用し、思いつくままに書いたり、「しかし」を誤用していたりする。適切な接続語を用いて段落を構成することができるようにしたい。
- ・友達と話し合いを行うことはできるが、ノートに考えを表現することが難しい児童がいる。形式の確認の他に、表現する際の語彙を増やしていくことが課題である。
- ・形式的に対話を作り上げることはできるが、何を、どのように伝え合うかについて今後深めていく必要がある
- ・漢字の読み書きには定着の二極化が見られるので、苦手な児童への丁寧な指導を続けていく。

【高学年】

- ・学力の個人差を補う手段として、様々な学習形態を用いてきたが、うまくいったものもあれば、不十分なものもあった。「意見を言う児童が限られている」という課題を解決するためには、今後も授業のデザインを模索していく必要がある。
- ・「事実」と「意見」とを分けて書いたり、「反論」となる自分の主張をまとめたりするためには、論理的な思考力が必要となるので、思考力を育てていくような指導も計画し実行していく必要がある。
- ・語彙力や表記の仕方などは、継続して指導していく必要がある。
- ・全員が授業に主体的に参加して、読む力を高めるためには、どのような手立てを用いるといいのか、吟味が必要である。
- ・児童が教材文とは異なる他の作品を読む際に、授業で学んだことが汎用的能力として使えるようにするには、どのような指導を行っていくといいのか、単元全体の計画、指導方法、指導内容などさらなる研究が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。 言葉の特徴や使い方に関する事項の「ローマ字で表記されたものを正しく読む」においては、目標値より大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。 書くこと領域の「調べた結果の表をもとに文章を書く」においては、目標値より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。主体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。 言葉の特徴や使い方に関する事項「漢字を読んだり書いたりする」「漢字の由来について理解している」においては、目標値より大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。 書くこと領域の「二段落構成で文章を書く」「自分の考えを明確に書く」においては、目標値より大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の形を意識して文字を書く時間を定期的に設定し、正しく丁寧に書くことを繰り返し指導していく。(指導計画) 文の中で漢字を使うことや、促音、拗音、長音の書き表し方を確実に習得するために、視写や聴写などを取り入れたり、書いた文章を推敲させたりして、表記方法を意識させる。また、それらの指導を継続的に行う。(指導計画・授業構成) 漢字小テストなど学習した漢字を振り返る機会を頻繁につくることで、児童が確実に新出漢字を覚えられるようにする。(授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話す際、行動したことや経験したことの順序に気を付けて話すように指導を工夫することで、児童が聞き手への伝わりやすさを意識できるようにする。(指導計画) あのねノートを活用した書く活動を日常的に取り入れることで、多様な題材で考えを文章に表せるようにする。(指導計画) 交流のねらいや目的を明確にし、ペアやグループといった交流方法を工夫することで、児童が交流活動を通していろいろな考えを知ったり、自分の考えを明確にしたりして、読み取りに活かせるようにする。(指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の初めに、学習のめあてや目的、その時間に考える課題を児童に示し、見通しをもって学習できるように工夫する。(指導計画) 単元や授業の終末に振り返りの時間を設け、児童自身がその時間に何を学び、どんな力が高まったのか、次に何を学ぶのか振り返り、次の学習に向けて意欲を高められるようにする。(授業構成) どの児童も主体的に学習に取り組めるよう、ワークシートや言語活動を工夫する。(指導計画・授業構成) 低学年の児童にとって自らの学習を調整することは難しい面もあるが、その基礎のためにワークシートや学習活動を工夫する。(指導計画)

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字やローマ字を定着させるために、スキルや小テスト、タブレットを使った学習を通じて反復練習をしていく。(指導計画・授業構成) 授業中や家庭学習においては、既習漢字を積極的に用いることを伝え、意識付けを行っていく。日記等、文章を書く場合には、段落や、句読点、引用等の使い方を確認する。(指導計画・授業構成) スピーチや自分の考えを発表する場において、視線や言葉の抑揚、間の取り方などの話し方に 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文では、「はじめ」、「中」、「終わり」の構造や、問いと答えの関係、段落相互の関係に着目させるとともに、作者の主張・意見などを読み取ったり考えたりする活動を継続していく。(授業構成) 物語文では、子供達自身で叙述を基にしながら登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりや結びつけて具体的に想像と考えるような授業構成を考える。(授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実のために、教科書や、漢字スキルの学習、読書活動、調べ学習等で分からない言葉が出てきたときには積極的に国語辞典を用いるように指導していく。(指導計画) 主体的に授業へ参加する意識を高めるために、自分で考える時間と、ペアで考えを共有する時間、全体に共有する時間を設け、自分の考えを表現する機会を増やしていく。さらに、ハンドサインを活用し、発言が難しくても意思表示を必ずさせるようにする。(授業構成)

<p>注意することで、伝えたい内容を聞き手が理解しやすくなることを伝え、意識付けを行う。 (指導計画・授業構成)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動に関して、週末に日記の課題を出したり、学習感想や自分の考えを書いたりする機会を増やしていく。また、内容の中心を明確にすることや誰にどんなことを伝えるのかを意識できるよう、文章の構成メモなどを作る活動を行う。 (指導計画・授業構成) ペアやトリオ、グループでの対話的な活動の時間では、何を伝え合うかの観点を明確化して行うようにし、意味のある対話となるように指導する。 (指導計画) 	
--	--	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 修飾語や指示する語が指している語句や役割などを確認する活動を繰り返すことで、言葉を正しく使えるようにする。 (授業構成) 語彙を増やすために、日常的に国語辞典や言葉の宝箱、新聞等を活用する。分からない言葉は辞書を使って調べさせ学級全体で共有し、語彙力を高めていく。 (学習習慣) 書くのが苦手な児童も、タブレットを用いることで抵抗感なく書く活動に参加できる場面も見られる。学力の個人差を補うためにも、効果的にタブレットを活用していく。 (学習習慣、授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の中心となる語や文を見付けられるように、キーワードやキーセンテンス、文章構成に注目させ、要約ができるようにさせる。 (授業構成) ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、何を伝え合うかの観点を明確化して行うようにし、意味のある対話となるように指導する。 (指導計画) どの児童にも思考が深まる授業展開の工夫をする。考えを共有する際には、タブレットを効果的に活用していく。 (授業構成) 対話的な活動では、話し合う目的を明確にしていく。 (授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の幅を広げ、関心を引き、意欲を高めるために、読書学習司書が教材文に関する本を紹介する。 (授業計画・授業構成) 見通しをもって学習に取り組めるように、単元の進め方や毎時間の学習の流れを掲示していく。また、既習の学習を活用したりつなげたりして課題に取り組めるよう指導計画を立てる。 (授業計画・授業構成)

4 今年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

【低学年】

- ・平仮名の形を意識して文字を書く時間を定期的に設定し、正しく丁寧に書くことを繰り返し指導したことで、文字を習熟し、形に気を付けて丁寧に書く姿勢も身に付いた。
- ・漢字小テストなど学習した漢字を振り返る機会を頻繁につくることで、児童が確実に新出漢字を覚えられるようにでき、漢字検定にも9割以上の児童が合格した。
- ・毎日音読に取り組むようにしたことで、文章の内容をより正確に読み取る手助けとすることができた。
- ・常時活動としてスピーチに取り組んだことで、日々の出来事の中から話す内容を見つけられるようになり、みんなの前で話したり、よく聞いて質問したりすることができるようになった。
- ・単元の学習の流れを示したり、1時間の学習の流れを掲示したりすることで、見通しをもって学習できるようになった。また、「自分タイム」という自己解決の時間を十分に取ったことで、安心感をもって対話的な活動に取り組む様子が見られた。
- ・対話的な活動において、ねらいや目的を明確にしたり交流方法を工夫したりすることで、児童が多様な考えに触れ、自分の考えを明確にすることができた。また、文章を読み取っていく学習活動にも生かせるようになってきた。
- ・「あのね日記」を習慣化することで、書くことへの抵抗が減り、考えたことを積極的に文章に表すことができるようになった。
- ・学習を進める中で、様々な思考ツールや話型を提示し、自分の学びに合ったものを選ぶようにしてきた。それにより、考えを表現する幅が広がった。
- ・児童が「問い」を作って読みを深められるようにしたことが、主体的な対話活動につながった。
- ・対話的な活動の充実を目指し、「受け止め言葉」「コトバンク」などの語彙集を、授業の中で取り上げ、教室掲示した。それによって、児童が主体的に語彙を増やすことができた。

【中学年】

- ・漢字やローマ字を定着させるために、宿題やスキル、タブレットで反復練習を習慣化したり、既習漢字を積極的に用いることを伝えたりして、定着を図ることができた。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しよう意識して文章を書けるようになった。
- ・書き出しの工夫をすることや自分の考えや気持ちを伝える言葉を選んで文章を書く学習を通して、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しよう意識して文章を書く姿が見られるようになってきた。
- ・言語活動の充実のために、教科書や漢字スキルの学習、読書活動、調べ学習等で分からない言葉が出てきたときには積極的に国語辞典を用いた。その結果、語彙力が増え、正しい言葉を使って文章を書ける児童が増えた。
- ・付箋交流を続けることで友達の良いところに目を向け、それを伝える楽しさや嬉しさを味わうことで自分の気持ちや考えを伝えようとする姿が見られた。
- ・家庭学習や授業中で音読活動を積極的に取り入れた。特に、物語文の学習で音読方法を工夫したことで、登場人物の心情変化に気付くようにした。
- ・物語文の学習では、全文シート（番号有り）を活用した。それにより、登場人物の行動・心情がどこに書かれているのか、すぐに分かるようになった。
- ・物語文の学習では、自分の考えが分かるように色別の付箋を活用した。色の違いから、自分と友達との考え方の違いに気づけるようになった。

【高学年】

- ・文章表現が豊かな作品を紹介しあったり、自作の詩や俳句を教室内に掲示したりして、多くの言葉に触れさせ語彙が増える環境を整えることに注力した。そのことで、活用しようとする姿が見られた。

- ・自分の考えを書かせるときに、立場を明らかにする話型を最初に入れることで、書くことが苦手な児童も自分の立場を明確にして考えを書くことができた。
- ・物語文や説明文などの読む単元では、内容把握に時間をかけるのではなく、「精査・解釈」する段階を重点にして配分した。このことで、豊かな意見に触れることができ、様々な考えを交流することができた。
- ・説明文の学習の際には、文章構成や接続語、中心となる語や文、キーワードの着目させることで、筆者の考えや主張を読み取ったり文章の要約をしたり要旨をまとめたりすることができるようになってきた。
- ・対話的な活動の場面では、タブレットを活用したことで、短時間で効果的に互いの考えを共有することができた。それにより、一人一人の児童が自分自身の思考の深まりを実感することができた。
- ・書くことが苦手な児童も、タブレットを用いることで自分の考えを書く活動に参加することができ、主体的な学びにつながった。今後も個人差を補うために、効果的にタブレットを活用していくことが有効であると考えている。
- ・文章を書く際には、モデル文を示しながら、構成メモにそれぞれの段落に書く内容を精査させてから文章を書き始めた。それにより、自分の経験したことや自分の考えが明確になり、その描写を想像しながら、自分の思いが伝わるような言葉をじっくり選び文章にしていって児童が増えてきた。

(2) 課題

【低学年】

- ・拗音や促音の表記の仕方をまだ身に付けられていない児童がいるため、繰り返し指導する必要がある。
- ・ワークシートや言語活動を工夫したことで、より主体的に学習に取り組める児童も出てきたが、それでも難しさを感じている児童もおり、さらに工夫する必要がある。
- ・対話的な活動を進める中で、自分の考えを伝えることが難しい児童もいる。交流の仕方を身に付けられるような指導の工夫が必要だ。
- ・考えを共有する場面で、友達の考えを聞いた上で新たな考えを見出したり、複数の考えを関係づけたり、統合したりするといった自分の考えを広げたり深めたりするための手立てを授業の中で取り入れる必要があった。
- ・既習の漢字に関するテストの点数は9割を超えることが多いが、文章内で使うことが未だに難しいことが課題である。

【中学年】

- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけではなく、原稿用紙の正しい使い方等、引き続き全体指導をしていく必要がある。
- ・「そして」「それから」を多用したり、「しかし」を誤用していたりするなど接続語の使い方に難しさを感じている児童が見られる。適切な接続語を用いて段落を構成したり、文章を書いたりできるように継続して指導を続けることが必要である。
- ・漢字の読み書きには定着の二極化が見られるので、苦手な児童への丁寧な指導を続けていく。
- ・対話的な活動を通して友達の考えを知り、自分の考えの広がりや深まりに活かせるように、今後も交流のねらいや目的、様々な交流方法を取り入れたり、話し合いの仕掛けを作ったりしていくことが必要である。
- ・物語文において、自分達よりも年上の登場人物や時代背景の違う物語の登場人物の心情を捉えることが、なかなか難しいことがある。単元の初めに、物語の背景や場面設定について押さえていくことも必要である。
- ・話し合いの仕掛けを作らないとなかなか自分から話し合おうできなかつた。また、仕掛けを作っても苦手意識をもっている子にとってはできなかつた。
- ・新出漢字の定着のためのミニテストを行っているが、実際にノートや作文などで文章を書く際、平仮名を多用する児童が多い。学習したことを活用できるようにしていく指導の工夫が必要である。

【高学年】

- ・読書を親しむ子とそうでない子の差が大きく、良い文章に触れる機会が少ない児童がいた。朝読書や図書本の時間に本を読ませるだけでなく、国語の単元学習の中でブックトークを行ったりさまざまな分野の本を紹介したりして、多くの児童が良い文章に触れる機会を作っていく必要がある。

- 文章を書く時に、どう書いていいのかわからなかったり書いたことに自信がもてなかったりした子もいる。そのため、書かせる段階で、モデル文を提示したり個別支援をしたりすることに加え、友達同士でアドバイスする時間を確保したりし、書くことに対する不安感を解消していく。
- 物語文や説明文の内容を読み取ることに苦手意識をもっている児童がいる。音読や既習事項の学習を授業の中に取り入れ、文章の構造や内容把握ができるよう指導の工夫をしていくことが必要である。
- 児童の考えを広げたり深めたりし、思考を深めていくために、対話的な活動の中で児童同士が、「友達の考えを聞いてみたい」と対話をしたくなるような発問を吟味し、活動場面を設定していくようにする。